

# よえもん

-Yoemon-

今月のことば

2014年3月 第11号

シリーズ  
よえもん

大洲のよえもんさん  
- 武芸と勉学 -

よえもんさんが15歳のころ、おじいさんとおばあさんが続いて亡くなりました。生れ育った近江とは遠く離れた大洲で一人、武士として働き、暮らしていくことになりました。



よえもんさんが生きていた時代は、江戸時代に入って間もない時代です。戦乱の続いた戦国時代が終わって間もない時代でもあります。

そのため、武士の中には「武士が本を読んで何になるんだ。学問ができて、いざいさになると役に立たない」と、本を読むことや勉学にはげ



ことを日課としていました。そして、夕食を終えると、深夜まで一人で勉強をしていたのです。

むことは、はずかしいことだ」と考えている人が多くいました。よえもんさんは、そんな武士たちの中で、朝からはお城に出向いて仕事をし、午後からは武芸のけいこをする

欲に、いただきなく  
ただむきぶりおしむばかりなれば  
財宝ありても  
心は貧者なり

著 判田瑞穂さん  
出典：『翁問答』上巻末より

この言葉は、藤樹先生が33、34歳の頃に喜かれた『翁問答』に出てくる下りです。

「欲に際限なくただ物を欲しがり、施すことを惜しむばかりでは、財宝があっても心は貧しいのです。」という意味の言葉です。

『翁問答』では、弟子の体亮と師の天君が問答をして、学問に対する弟子の疑問を解き明かしていきます。

江戸から現代に至るまで人々の心を引きつける藤樹の教え。約400年にわたって、伝わってきた教えには



どのような立役者がいたのでしょうか。藤門の高弟を中心に紹介します。

4月から企画展が  
変わります!!!

次の企画展についてのお知らせです。  
中江藤樹の教えをなめた人物について取り上げる予定です。

現在、展示中の「中江藤樹の顔展」は、3月30日までの開催と印刷。

近江聖人 中江藤樹記念館  
高島市安曇川町上小川69

TEL・FAX (0740)-32-0330

中江藤樹の顔展 開催中!!  
ラストサポート!!

